

S1-26

バイオフィールにおける モニタリング手法の検討

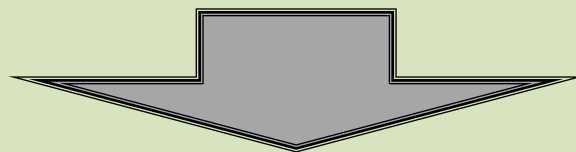
高柳 宏(南洋土建) 金城和哉(同左)

門倉伸行(熊谷組) 佐々木静郎(同左)

村田 均(テクノス) 川口博史(同左)

主なモニタリング項目

モニタリング項目	平均的な 所用日数
外気温・パイル内温度・酸素濃度	即日
土壌含水比(率)・土壌のpH	3～5日間
総菌数・C/N比・全リン・全カリウム	7～10日間



外気温・パイル内温度・酸素濃度
に着目した検討

過去の実験内容



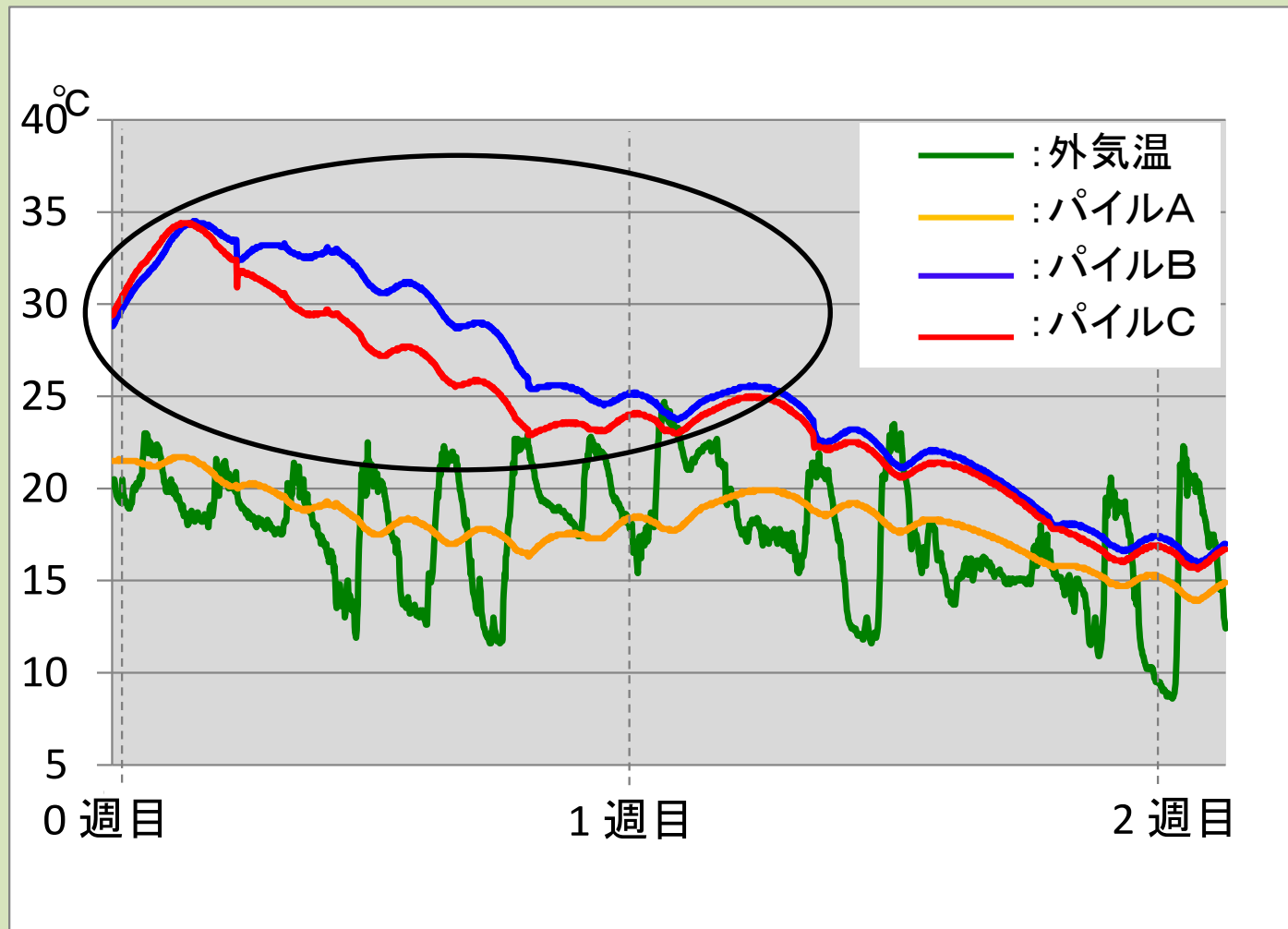
パイルA(コントロール)
無添加

パイルB(ステイミュレーション)
栄養塩+有機資材

パイルC(オーグメンテーション)
石油分解菌+栄養塩+有機資材

バイオパイル実験状況

モニタリングデータのグラフ化



○ : パイル内温度が上昇し、微生物が活性化した痕跡 (⇒菌数増加及び油分濃度減少期間が一致)。